平成 29 年４月１日～平成 30 年３月 31 日

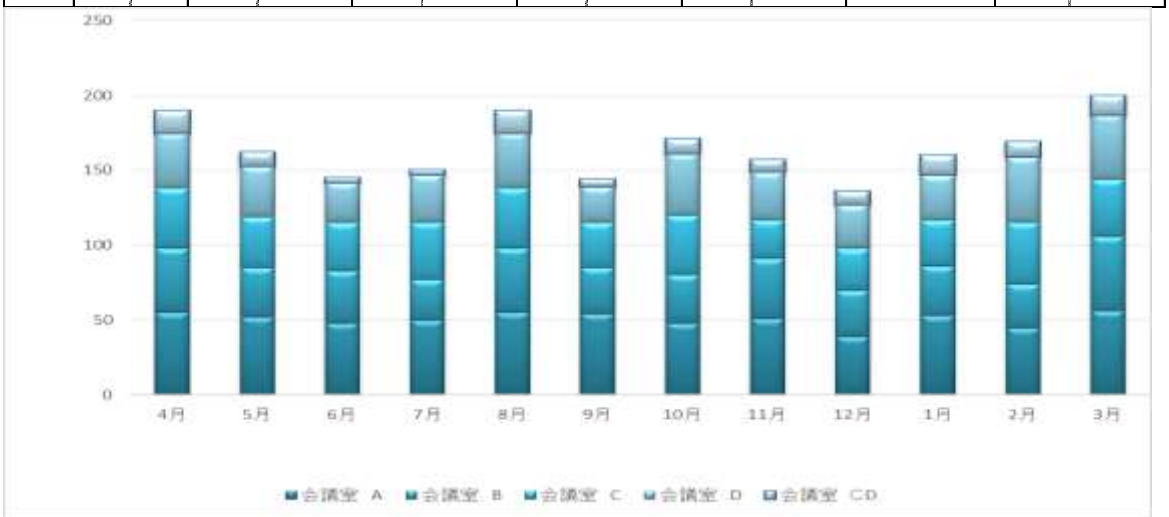
Ⅰ　指定管理事業

１．あしや市民活動センター（以下、活動センター）の指定管理業務

(1) 管理運営業務（定款①）

・会議室Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄを貸し出した。平均稼働率は 54%であった。

	稼働日数	稼働回数	会議室 A		会議室 B		会議室 C		会議室 D		会議室 CD	合計	
			回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	回数	回数	稼働率(%)
4月	24	72	55	76%	43	60%	40	56%	37	51%	15	175	61%
5月	24	72	52	72%	33	46%	34	47%	34	47%	9	153	53%
6月	22	66	48	73%	35	53%	32	48%	27	41%	3	142	54%
7月	25	75	50	67%	27	36%	38	51%	32	43%	3	147	49%
8月	26	78	55	71%	43	55%	40	51%	37	47%	15	175	56%
9月	24	72	54	75%	31	43%	30	42%	24	33%	5	139	48%
10月	25	75	48	64%	32	43%	40	53%	41	55%	10	161	54%
11月	24	72	51	71%	40	56%	26	36%	32	44%	8	149	52%
12月	22	66	39	59%	31	47%	28	42%	29	44%	9	127	48%
1月	23	69	53	77%	33	48%	31	45%	30	43%	13	147	53%
2月	23	69	45	65%	29	42%	41	59%	44	64%	10	159	58%
3月	26	78	56	72%	50	64%	38	49%	43	55%	13	187	60%
合計	288	864	606	70%	427	49%	418	48%	410	47%	113	1,861	54%



・９月 22 日（金）公光分庁舎２課１団体による避難訓練（報告書９頁）

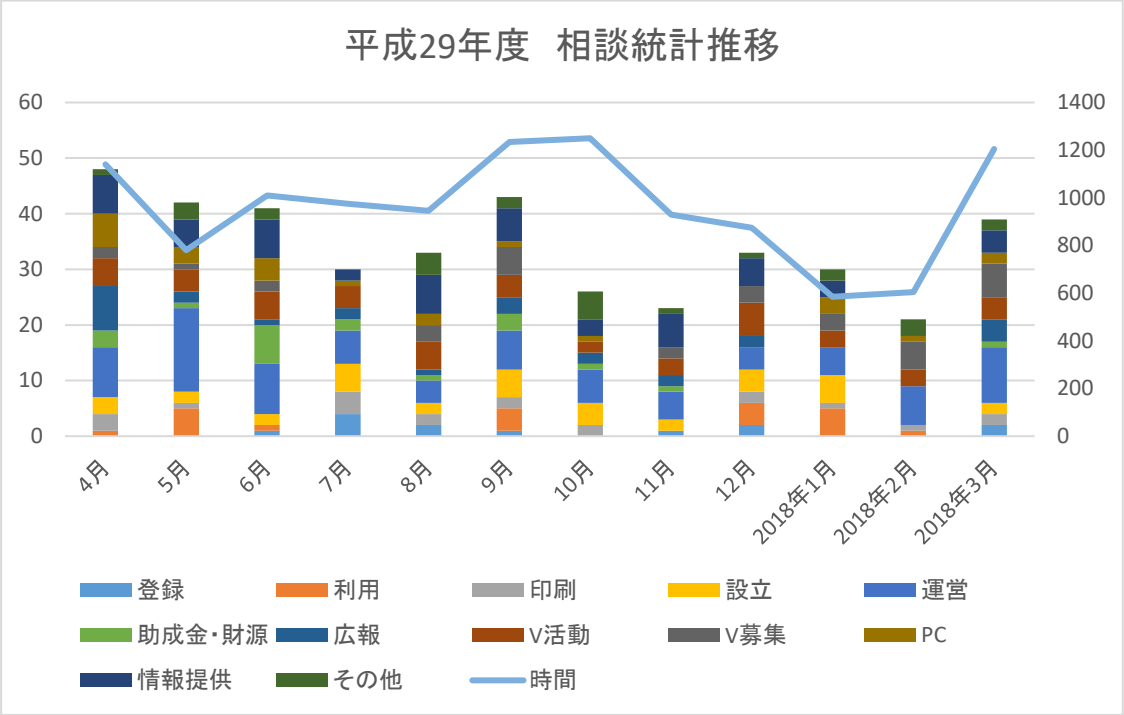
・10 月 19 日（木）公光分庁舎２課１団体による普通救命講習会（報告書 10 頁）

・11 月１日（水）緊急地震速報訓練を施設利用者と共に行った。

・NPO 関連の図書、プロジェクター、折り機等機器を無償で貸し出した。

(2) 相談業務（定款②）

【相談対応の状況】



＜相談件数・時間とも大幅に増加＞

・相談件数の総数は 409 件、相談対応時間は 11,535 分（192 時間 15 分）であった。印刷方法や会議室利用に関する１件５分前後の相談は、年間 668 件あった。

・前年比で相談の総数は 32.7%増加、相談対応時間は 36.8%増加している。

・各月別では４月から９月にかけて相談件数が７、８月を除き、ほぼ 40 件以上で推移した。下半期にかけてはやや減ったものの、昨年度の同月を上回る月がほとんどであった。

＜NPO・団体設立に関する相談が 3 倍に＞

・相談内容の内訳は、NPO・団体設立が 36 件、団体の運営が 87 件、情報提供が 55 件、ボランティア活動が 48 件、ボランティアの受け入れに関する相談が 32 件、広報に関する相談が 27 件、パソコン相談が 24 件、リードあしやの利用方法に関するものが 21 件、助成金・財源に関する相談が 20 件、リードあしやの登録に関するものが 13 件、印刷に関する相談が 20 件、その他が 26 件だった。

・前年度と比較すると、NPO・団体設立に関する相談が 3 倍近くと大幅に増えているのが特徴である。前年度は助成金・財源に関する相談を運営相談に入れていたので、その点を考慮すると助成金・財源相談と運営相談を合せて 106 件となり前年度より 20 件増えている。設立相談と併せて、団体運営に関する相談も増えている

状況である。

＜相談分野＞

・高齢者、障害者、子どもの福祉分野の相談が合せて 162 件と昨年の 121 件から 40 件ほど増加した。

・多文化共生（国際分野）が 48 件と前年度の 13 件から大幅に増えているが、前年度から継続的に支援している団体の「こくさいひろば芦屋」からの相談分類を「子ども」から「多文化共生」に振り分けたためである。

・相談分野の区分を変更したため前年度と単純な比較ができないが、文化に関する活動が福祉の三分野と同じ数に上っている。この分野の活動も少なくないというのが分かった。

＜相談主体の特徴＞

・組織（グループ含む）からの相談が約 80%を占め、個人からの相談が少なかった。

・NPO からの相談が 41%と最も多く、次いで行政からの相談 31 件、芦屋川カレッジからの相談 29 件と続いている。

・自治会からの相談が前年度 13 件から今年度 24 件と増えている。自治会からの相談はこの 3 年間で 8 倍に増えている。

・登録団体からの相談が 138 件と全体の 33%程度で、前年度（約 28%）から少し増だが同程度の割合。

・60 歳代以上からの相談が全体の約 45%、40～50 歳代が約 36%、20～30 歳代が約 16%であった。

【分析】

・全体の相談件数、相談時間数が増えている。伴走型の支援を要するケースの増加が最も大きい要因と考えられる。

・福祉関係の活動をする団体等からの相談が多い。前年度からボランティア受け入れの講座を開講し、その関連で担当者から相談が入るようになったのが背景にある。演芸ボランティアを依頼したい相談も増えていることもある。

・広報支援に力を入れていることをアピールしたことで広報関連の相談が増えた。広報関係の講座からチラシのデザインや広報媒体に関する相談が増えた。

・設立相談が前年度に比べて非常に増えた。法人化を目指す団体の伴走支援をしたことが大きい。

【今後のアクション】

＜ボランティア受け入れ支援＞

・芦屋市内はボランティアの活動先が少ないが、ボランティア受け入れ講座に参加する福祉施設の担当者の関心は高い。プログラム開拓から伴走し、ボランティア受け入れの成功体験を積み重ねてもらうことで活動先を増やしていく。

＜組織基盤の強化支援＞

・組織基盤、体制が十分整わないまま事業を開始したり、法人化したりといったケースが散見される。基盤強化には、相談者（多くは団体の代表）だけでなくメンバーの中に入って伝える必要がある。

＜フォローアップ＞

・相談後の状況について、適宜可能な限りでフォローアップを行う。モチベーションが下がりがちな時期でのサポートを意識したい。

⑶ 市民活動団体の相互の交流とネットワーク支援事業（定款⑤）

・５月 29 日（月）から６月２日（金）芦屋市立精道中学校の「トライやる・ウィーク」の受け入れ（報告 11 頁）

・６月 17 日（土）第 10 回あしや市民活動フェスタ開催（報告 13 頁）

・12 月２日（土）演芸ボランティアフェアを開催（報告 18 頁）

⑷ セミナー事業（定款④）

・４月 15 日(土)、２月 24 日（土）はじめてみよう初心者のためのボランティア講座（報告 20 頁）

・５月 13 日（土）NPO 法人設立の基礎講座（報告 22 頁）

・７月から３月、第３回リードあしや登録団体自主講座企画応援事業において６団体の申請があり、「(一財) 日本熊森協会」「AC31 期同期会南京玉すだれ「ひまわり会」」「こくさいひろば芦屋」の３団体の講座企画を支援した。（報告 23 頁）

・11 月 11 日（土）、25 日（土）NPO・ボランティアグループのためのかきかた講座１回目「なるほど！伝わるチラシの作り方」２回目「プロに学ぶ！伝わる文章の書き方」（報告 25 頁）

⑸ 市民参画及び協働に関する情報収集と提供業務（定款②）

・活動センター内で、ラック・パネルなどを活用して団体情報を掲示

・季刊紙「リードあしや」37 号を７月５日、38 号を９月２７日、39 号を 12 月 21

日、40 号を３月 15 日に発行

・ホームページで、登録団体のイベント告知や芦屋市の情報等を発信

・市民活動関係図書の購入及び、利用者の自由閲覧

・ボランティア募集情報及び、施設利用に関してのアンケート報告の掲示

⑹ボランティアコーディネーション（定款⑦）

・４月１日（土）、２日（日）、３日（月）「第 29 回芦屋さくらまつり清掃ボランティア」（報告 28 頁）

・10 月８日（日）「第 29 回あしや秋まつり清掃ボランティア」（報告 31 頁）

⑺調査・研究事業（定款③）

・登録団体の登録申請書及び、報告書の記入内容を見直、様式改善案の協議。

⑻市内中間支援団体交流事業（定款⑤）

・３月 22 日（木）に中間支援組織の交流を目的とした会議を、あしや市民活動センターの指定管理者である当法人を含む三者(特活)芦屋市体育協会（芦屋市体育館)、(特活)芦屋市国際交流協会（潮芦屋交流センター）で開催。

⑼地域課題解決の仕組みづくり会議（定款⑥）

・４月 25 日（火)、11 月 14 日（火)、３月 12 日（月）あしや子ども笑顔ネット会議開催。

・４月から７月芦屋 777 プロジェクト実行委員会会議６回､実施期間８月１日(火)から 31 日（木)、振り返り 10 月 10 日（火）開催。（報告 34 頁）

⑽自主事業

・印刷機、コピー機の貸し出し及び、印刷に関する助言及び支援

・交流スペースで 16 団体の作品の展示、販売の場を 23 回提供

・８月１日（火）～５日（土）夏休み子どもワクワクスペシャル（報告 41 頁）

・１月 13 日（土)、20 日（土）冬のふれあい Café（報告 43 頁）

・２月 22 日（木）ボランティア受け入れの基礎講座（報告 44 頁）

・自動販売機を設置及び、飲食物の販売をし、利用者のくつろぎの場を提供

⑾研修

・内部研修（1 時間）７回開催

・２月１日（金）尼崎市主催「みんなの尼崎大学開港記念講座　稼ぐまちが地域を

変える」を職員２名が受講し、他職員へのフィードバック勉強会を開催

・３月８日（木）京都大学公共政策大学院社会連携室主催「震災現場から日本の災害法制の在り方を問う」に職員１名が参加し、平成 30 年度の事業「災害」について学んだ。

Ⅱ　受託事業

芦屋自治会連合会ホームページ作成および維持管理（定款⑤）

・芦屋自治会連合会より受託により 27 回の更新

Ⅲ　独自事業

１．はじめの一歩助成事業（定款⑤）

・子どもや若者が主体的に社会参加するための力を育成する事業を支援する助成事業を実施。「こくさいひろば芦屋」「茶屋之町自治会」２団体を採択し報告会開催。

２．セミナー事業（定款④）

・２月３日（土）「Facebook 活用講座」開催。（報告 46 頁）

・３月３日（土）「地域課題解決のための IT 講座（中級編）」開催（報告 47 頁）

３．講師派遣事業（定款④）

・８月 30 日（水）、９月 22 日（金）、11 月 16 日（木）神戸市社会福祉協議会「精神保健福祉ボランティア講座」「ボランティアコーディネーター研修」

・３月６日（水）学園東町ふれあいまちづくり協議会「ボランティアグループ連絡会交流会」

・３月７日（木）池田市社会福祉協議会　ボランティアセンター「ボランティアグループが楽しく活動を続けるために」

４．他団体への後援・協力（定款⑤）

・５月 21 日（日）「こくさいひろば芦屋定期総会、記念事業」出席

・７月１日（土）「社会を明るくする運動」市民の集い出席

・７月 28 日（金）「社会を明るくする運動」学習会出席

・11 月 19 日（日）「東日本震災支援芦屋ユナイテッドリレーマラソン 2017」参加

・12 月５日（火）～11 日（月）「第 10 回芦屋市障がい児・者作品展」協働

・１月 14 日（日）こくさいひろば芦屋主催「W受賞お祝い会」出席

・４月２日（月）～８日（日）あっとオーティズム「世界自閉症啓発デー及び発達障害啓発週間におけるLIUB Japan 2018キャンペーン」後援名義
・３月24日（土）芦屋観光協会主催「芦屋みどりの音楽祭」協力
・当法人のホームページを利用した市民団体の広報支援

５．情報提供事業（定款②）

・６月30日にNPOセンター通信８号を発行し、会員及び他団体へ郵送。
・市民活動団体の発信力、社会的認知を高めるために、法人のホームページにイベント情報や動画を掲載。
・ボランティア活動や市民活動のイベントを中心としたメールマガジンを毎月発信。

６．各団体の委員等（定款⑥）

・５月30日（火）第67回社会を明るくする運動芦屋市推進委員会
・６月22日（木）７月26日（水）12月21日（木）芦屋市障がい児・者作品展
・７月21日（金）24日（月）27日（木）８月９日（水）12月19日（火）災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議委員会及び、企画委員会
・10月18日（金）３月12日（月）西宮市市民交流センター運営委員会
・７月19日（水）10月４日（水）２月１日（木）芦屋市女性活躍推進協議会
・１月10日（水）芦屋市立みどり地域生活センター運営協議会
・２月26日（火）市町・市区町社会福祉協議会連携等会議
・３月19日（月）芦屋市地域福祉計画推進評価委員会
・４月４日（水）芦屋市みどり地域生活支援センター運営委員会

７．団体間の交流（定款⑥）

・10月28日（土）３月８日（木）関西NPO支援センターネットワーク(KNN)

Ⅲ．組織運営

１．会員

・正会員：個人 10 人／団体８団体

・賛助会員：個人 22 人／団体９団体

２．会議

・理事会

４月 19 日（金）　第１回理事会　総会開催内容討議

８月 31 日（木）　第２回理事会　10 周年記念式典審議

12 月 14 日（木）　第３回理事会　平成 30 年度事業企画事務局案審議

・４月 19 日（金）　平成 28 年度監査

・５月 27 日（土）　第 11 期通常総会

・５月 27 日（土）　会員、賛助会員対象の研修会

・事務局会議

毎月１回全員出席で開催。毎朝 10 分程度の朝礼

・指定管理者企画会議

毎月１回、市民参画課と指定管理事業内容の確認

３．法人設立 10 周年記念式典事業

・日　時：平成 30 年 1 月 28 日(日)11 時～14 時

・会　場：ホテル竹園芦屋

・参加者：49 人

・内　容：はじめの一歩助成採択者の報告及び、法人設立 10 年間の事業報告

「公光分庁舎合同避難訓練」報告書

１　日　時：平成 29 年 9 月 22 日（金）16：00～16：30

２　参加者：職員 6 名（内 1 名市民参画課）・当日会館利用者 3 名
　　他、芦屋市経済振興課・芦屋市男女共同参画推進課

３　内　容：公光分庁舎北館 2 階給湯室にて出火
　　・出火場所確認
　　・職員は各担当の活動を行い、避難訓練をする。（役割分担表参照）
　　・水消火器で使い方を学ぶ。
　　・消防本部より訓練についての講評を聞く。

４　全体の振り返り

①初期消火について

・近隣施設から初期消火にかけつけるのが遅いと感じた。（リードからの避難が終わってからきた）火事になったことの認知が遅かった近隣施設は、初期消火に行かない判断もできるようになると良いと思った。

②消防署への通報について

・電話の横にある「通報マニュアル」を見ながら通報できたので、落ち着いて住所などの情報を伝える事ができた。

③避難誘導について

・エレベーターを使用禁止にしていたが使用した人がいた。

④その他

・訓練担当された消防職員の説明があまり十分ではなかった。
消火器の効果的な使い方の説明がなかった。（炎の根元にかけるとか）
何秒もつか、消火剤の効果（使途）についてなどの説明がなかった。

・避難して集合した際、消防職員からの避難時の感想や注意点など全体の前で伝えてほしいと感じた。

・来館者の協力があまりなかったことから、協力者に依頼する方法を工夫する。（お土産など）

５　担当者の振り返り

・今回初めて３課連携の訓練をした。利用者が多い場合は、各課の初期消火班と避難する利用者が自動ドアの前で混雑することが予想される。その場合は避難を優先にする。

・会議室Ｂの避難について消防署に相談した。入口から避難できない場合、窓を

乗り越えて避難するしかないと言われた。会議室Ｂの窓の外が、金網になっているので足場が悪い。避難経路にもなっているので、通路の改善が必要である。

「普通救命講習会」報告書

1　参加者：男女共同参画センター３名　地域経済振興課１名　環境課１名
　　市民参画課１名　リードあしや２名　　計８名

2　実施日：平成 29 年 10 月 19 日（木）13 時 30 分～16 時 00 分

3　内容について

・芦屋市消防本部の現状・救急出動体制について話を聞く。

・心肺蘇生の手順を学び、実技を行う。

・ＡＥＤの使用方法を学び、ＡＥＤを使用しながらの心肺蘇生の実技を行う。

・その他の応急処置を習う。（窒息、出血の止血、骨折、やけど、熱中症等）

・質疑応答（現場に居合わせた時の初期対処法・ＡＥＤの取り出し方など）

4　参加者の感想

・以前講習を受けたことがあったが、忘れていることがあった。定期的に受講する必要があると思った。

・はじめて受講して知らないことだらけだった。

5　担当者の感想

・今回は市やセンターの職員のみの参加で、実際に使う可能性が高いので、真剣に取り組んでいた。

・説明の中に職員としての対応も含まれており、実際を想定した内容になっていた。

6　今後の対応

今後も職員研修を中心に市民にも参加を呼びかけるが、公光分庁舎 3 課だけでなく芦屋市の他の課にも広報し受講を呼びかけていきたい。

トライやる・ウィーク受入実施報告

１　日　　時：平成 29 年５月 29 日（月）～６月２日（金）9 時～15 時

２　学　　校：精道中学校３人

３　協力団体：（社福）三田谷治療教育、（認特）フードバンク関西

４　目　　的：ボランティア、NPO とは何かを理解してもらい、市民活動団体の支援の場である市民活動センターの存在を若い世代から理解していただくこと。

５　内　　容：１日目：NPO とは（NPO 団体の活動体験と座学）
２日目:センターの機能を知る。(センター不思議発見と機器体験等)
３日目：ボランティアとは（障がい者施設の訪問と座学）
４日目：会議体験と振り返り
５日目：成果発表会

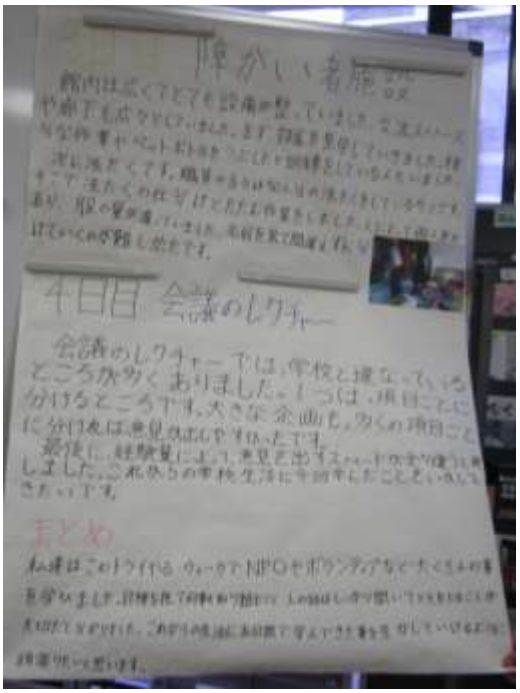
６　評　　価：昨年度同様に他団体の協力もあり、計画は全体的に充実していた。
他団体訪問によって、団体同士の繋がりというもの、団体の支援ということも、生徒たちには理解してもらったようだった。
生徒たちは印刷体験等の作業は楽しげであったが、学びの部分は初めての言葉などに戸惑っていたように見受けられた。
当センターの職員の学びの場ともなった。

７　成　　果：他団体訪問のレポートや、日々の振り返り、成果発表会から、ボランティア、NPO について理解していることがわかった。生徒の毎日の日誌には、保護者のコメントもあり、生徒からは保護者とよく話をしていることを伺い、当センターのことも知ってもらったように思えた。

８　振り返り：今年度は、精道中学校１校のみの受け入れであったが、生徒からは自ら選んだことを伺い、ボランティア意欲を感じた。５日間でリードあしやの仕事内容や、中間支援を理解するのは難しく思えたが、生徒たちはそれなりに吸収したようで、目的は達成したと考える。
今後、彼らが市民活動に興味を持ち、このセンターを利用していくことを期待している。

みどりホーム

1日目
フードバンク見学
NPOについて
2日目


障がい者施設
4日目 会議のシュミレーション
まとめ

第10回あしや市民活動フェスタ実施報告

１　副　　題：「未来つくる芦屋100人たぶん会議」

２　実 施 日：平成29年６月17日（土）

３　参加者数：98名
（高校生35人、一般・団体48人、ゲスト４人、スタッフ７人、他４人）

４　内　　容

(1) 目　的：芦屋への想いを若者と市民活動団体が、All芦屋で知恵を出し合い語り合い、アイデアを実現し、次世代へつなぐ。

(2) テーマ：想像から創造へ

(3) 内　容：第１部 ゲストスピーカーによるパネルディスカッション
第２部 私たちの暮らすまち芦屋を考える会議
ディスカッション１「芦屋の良さと課題を語り合う」
ディスカッション２「１で出た課題を１つ選び解決策を練る」

(4) 振り返り：

・パネルディスカッションについては、山崎氏（ファシリテーター）、大森氏、三宅氏、中田氏（パネリスト）との事前打ち合わせが出来ず、本番を迎えることになった。ディスカッション内容は、よく聴くとメッセージ性はあるのだが「お金持ちのまち」という言葉がクローズアップしすぎたようで、高校生には伝わりにくく思えた。

・グループディスカッションでは、世代間のギャップがあったグループもあったようだが、慣れないグループワークをフォローする大人の姿が目に付いた。また、議論するテーマがわからないグループには職員がフォローに回った。司会者との打ち合わせ不足を痛感した。

・その他、運営については、芦屋学園高等学校の生徒がボランティアとして受付や弁当配布を手伝ってもらった。参加者の皆さんに声をかけられていたようだった。（他、事務局の振り返り参照）

(5) 効　果：

・多世代が語り合う場の必要性を訴える意見が多くあり、今回、高校生と同じテーブルで話し合えたことに意義を感じた。

・芦屋の知らなかった魅力や、課題をあらためて知る機会を得ることができた。但し、今回は「知る」に留まったことが残念である。

・内容はリードあしやホームページに掲載していく。

(6) 今後の対応：

・今年度の会議を受け、アウトプットしたものを次年度に繋げる予定ではあったが、そこまで持って行けなかったため、次年度の持っていき方工夫しなければならない。事務局で再構築する。

・当初、お知らせしていた高校、２校が文化祭のため参加できなかった。前年度も日程調整をさせていただいたが同様であった。案の時点から繋げていかなければならないことを痛感した。

・基本的には、「多世代」「未来に向けたもの」「想像から創造へ」というキーワードは残しておきたいと考える。

(7) 参加者の感想：

アンケート調査はしなかったが、終了後に伺った感想等は以下の通り。

・高校生の皆さんの参加は、大変刺激的で、また、未来を支える彼らのグループ討議，発表は感心した。

・大人の方々が高校生とも対等に話し合いの場を持っている場面が感動した。

・楽しい時間を過ごせた。

・長かった。集中力が続かなかった。

・ボランティアの方（高校生）は、学校名等わかるようにしたほうがいい。

・様々な人と知り合えた。

事務局振り返り

【コンテンツ】

●プログラム全体

・パネルディスカッションの位置づけが不明確になり、後半の会議に不自由な「枠」がはめられたように。100 人会議が主になるはずだったが薄れたように思われた。

・市外の高校生の割合が多く議論が深まりにくかった。大人が高校生を尊重しすぎた。

・大森さんの意見にひっぱられすぎた。

・グループディスカッション時にゲストにもテーブルに入ってほしかった。

・いきなり、パネルディスカッションにはいるのではなく山崎さんに事例発表などのトークをしてもらっても良かったかも。

●パネリスト

・パネリストの数、人選。（個別の登壇者にもそれぞれ疑問）

・三宅さんが山崎さんを異様に持ち上げていたことに違和感。バランサーとして期待したが。期待外れ。

・大森さんは場の意味にあまり共感がない様子で、引っ掻き回して終わった印象。

・山崎さんはファシリテーターをしていなかった。

・中田さんが一番まともなコメントをしていた印象。

・ゲストの得意分野、意見がバラバラでよかった。

・ゲストが個性的で、意見が面白かった。

・脱線しがちなパネルディスカッションも山崎さんが軌道修正してくれていた。

●参加者

・自発的でない高校生があまり主体的に議論に参加できてない様子も見られた。

・対象の設定

●グループディスカッション

・グループによっては世代間のギャップが埋まらず。

・芦屋在住でない（学校には通っていても関心、知識が乏しい）人が多かった。

・グループワークの方法に不慣れな人も少なくなかった様子。方法についてインストラクションが必要だった。

・何について議論するのかわからず困惑されるグループも。

・パネリストがグループワークに参加せず（自分たちでしゃべっているだけ）
・司会者が進行を把握していなかったところもあった。

●その他
・時間設定（長すぎたためか集中力も切れていた人も）
・山崎さんを囲んでのアフタープログラムを実施できず（取材を設定したため）
【ロジ】
・名札の指示がいきわたっておらず、最後までつけてない人も
・アンケートの未実施
・会場の収容人数

【次へ向けて】
・今後の進め方の設計方法　・登壇者を迎えるなら認識のすり合わせの徹底
・会議主体になるような仕掛け、工夫必要　・誰を参加者と想定するのか

●受付
・座席カード、テーブルの数が合わなかった。
・当日参加の方の対応を確認、理解しておくべきだった。
・会場案内が必要だった。学生受付をボランティアに任せ対応した。
・席カードの数、グループ名に誤りがあって混乱した。
・会議室 CD のグループ名が机に直接貼られていたため見えにくかった。入口から見えるようにスタンド式にしたほうがよかった。
・会場案内係が必要だった。

●昼食について
・会場から順番に案内があったので混雑がなく良かった。
・ゴミの回収場所の案内が足りなかった。
・昼食直前にグループごとのお弁当配布にしたため混乱はなかった。
・飲み物のほとんどを缶にして、フリーをコーヒーだけにしていた。お茶もペットボトルでフリーにしてもよかったかも…
・受付、弁当配布などスムーズだった。

●備品について

・フェスタ当日に養生テープがなくなりかけた。次回はフェスタ担当者に、使用する備品について入念に確認する。

●一階の朝の自転車整備・案内について

・歩いて来られる方が多く、臨時自転車を利用する事はなかった。

・フェスタ当日に、他イベントの参加者 6 組程の来所があった。（他イベント（さんぴぃす主催）のチラシに開催場所が当センターと記載されていたためと判明。）

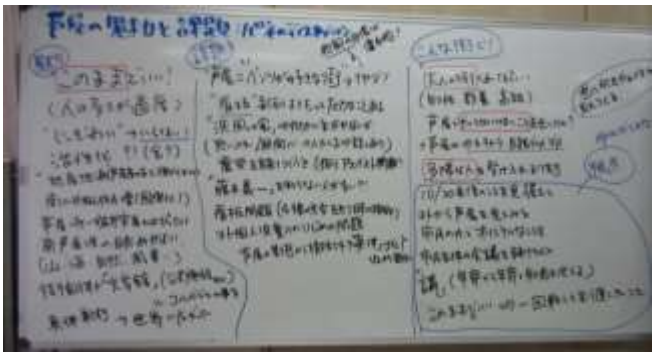
●学生ボランティア

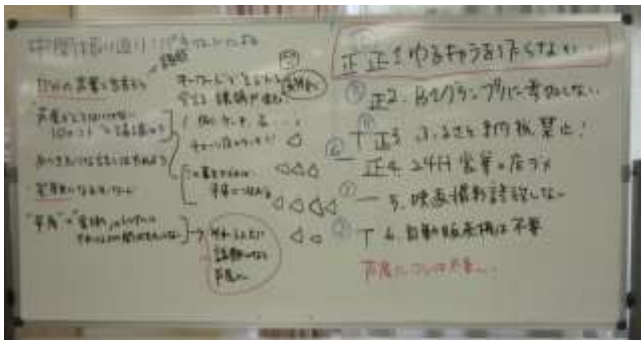
・事前に説明していたため、一斉に受付をしてもスムーズにできた。

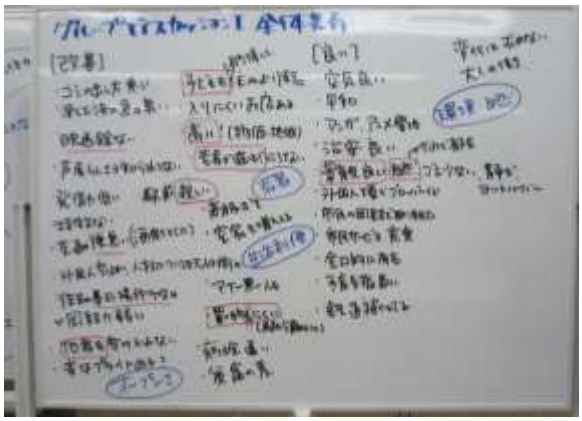
・途中体調を崩して学生がいた。引率の先生の不在を知らされていなかったためすぐに連絡できなかった。

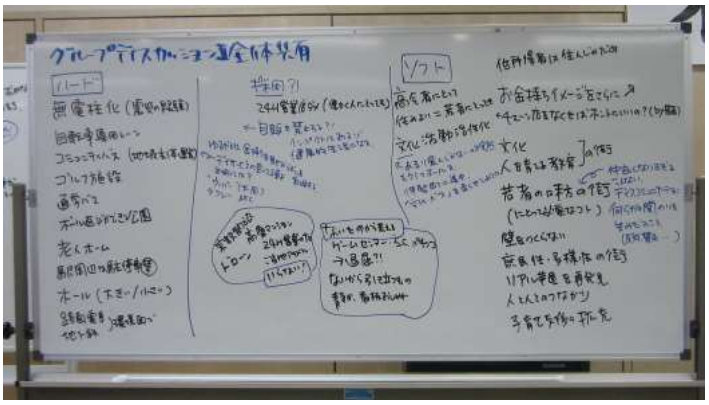
●その他

・当日はフェスタ以外の利用者・電話も少なかったのでよかったが、センター受付が無人になることが何回かあった。イベント当日の会館業務もしっかりやっていきたい。









演芸ボランティアフェア実施報告

１　実施日：平成 29 年 12 月 2 日（土）

２　参加者数：約 100 名（パンフレット残数から概算）

３　参加団体：9 団体

４　内容

(1) 目的：阪神地域で活躍する演芸ボランティアのみなさんが集まり、それぞれの芸を披露し活躍の場を広げるとともに、来場者の方も活動に出合うきっかけにする

(2) 内容：

・出演団体を公募し 8 団体が出演、加えてゲスト演奏に登録団体 Step by Step が出演し、各種演芸を披露した。

・各演芸の動画を編集し、各団体に配布して PR 材料にしてもらうほか市民活動センターのウェブサイトに掲載し広報支援する。

(3) アンケート結果（出演団体対象）＊（）内は回答数

①開催時期の希望：夏季（１）、秋季（４）　夏季（１）いつでも（２）

②出演時間：今回程度が良い（８）　③ステージの大きさ:ちょうどよい（８）

④PA:ちょうどよい音響だった（８）　⑤機会があれば出演したいか（８）

⑥演芸ボランティアを続けるうえでの課題

・依頼が集中し全依頼に対応できていない。他の団体にも依頼がつながれば。

・人材確保。（ピアノの伴奏者探し）

(4)　振り返り

・従来、市民活動フェスタの中の一部であった演芸活動のボランティアを別にし、行事時に、演芸グループを探している福祉施設や自治会などのニーズに沿ったイベントを初めて企画した。

・人数は明確に確認できないが、数名の担当者が来場（高齢者施設、障害者施設、国際交流協会など）、さっそく出演交渉となったケースも見受けられた。

・一般の観覧者数は、市民活動フェスタに比べ多くはなかったが、当初の目的は一定達成できた。

・フェアで撮影した動画を編集しウェブサイトに公開して、さらに PR を促進して、一過性のイベントで終えずに情報ソースとして活用する。この効果については一定期間の後、別途検証したい。

p

はじめてみよう　初心者のためのボランティア講座実施報告

1　実施日：平成 29 年 4 月 15 日（土）

2　参加者数：6 名

3　目的：ボランティアの基本的な知識を学び、市民活動に参加する市民を増やす

4　講師：奈良雅美

5　配布資料：チラシ、レジメ、活動先資料

6　概要：

①　ボランティアについてのレクチャー

ボランティアの意義、活動分野の広がり、自分に合ったボランティアの見つけ方、ボランティアの社会的な意味、継続するためのコツ　他

②　具体的な活動の紹介

芦屋市内の活動（障害者施設、子ども支援活動、居場所づくり、外国人支援、フードバンク、など継続活動と、花壇の花植え替えの単発活動、献血や寄贈）を紹介。具体的なアプローチの方法を説明。

③　質問

・不登校の子ども支援の活動はないか⇒団体としては芦屋市域にはない

・毎週の活動は毎週参加しなければならないか⇒活動先と相談できる

・ボランティア保険は活動するときにかければよいのか⇒事前ならばよい

7　参加者感想：

・ボランティアに対するイメージが身近になりました。自分にあったボランティアを見つけたいと思います。

・ボランティアに対して理解が深まりました。ちょっとわくわくしてきました。

・ボランティアの心のお話しを聴かせていただき素晴らしいなと思いました。

・大変勉強になりました。

・頑張りすぎず長期的に続けていきたいと思います。

・人々を元気にできるボランティアにたずさわりたいと思いました。

・特技がないし、お役にたてるかなあと思いました。

8　所感

・開催時期のせいか、参加希望者が多かった。ボランティアの基本的な要素、ポイントを押さえることで、理解・納得できる活動へつながる。

・多様な活動を選択できるよう、より幅広い活動先を開拓したい。

はじめてみよう　初心者のためのボランティア講座実施報告

1　実施日：平成 30 年 2 月 24 日（土）

2　参加者数：4 名

3　目的：ボランティアの基本的な知識を学び、市民活動に参加する市民を増やす

4　講師：奈良雅美

5　概要：

①　ボランティアについてのレクチャー

ボランティアの意義、活動分野の広がり、自分に合ったボランティアの見つけ方、ボランティアの社会的な意味、継続するためのコツ　他

②　具体的な活動の紹介

芦屋市内の活動（障害者施設、在住外国人支援、認知症カフェ運営、一人一役活動制度、など）を紹介。

③　質問

・1 日体験ボランティアなどがないのか。

⇒芦屋市内ではないが、他地域にはあるので紹介するとともに、通常の活動でも、1，2 回試しで参加することができると説明。

6　参加者アンケート：(回答 3 件)

・ボランティアについての理解（よくわかった 3 件）

・やってみたい活動がみつかりそうか（見つかりそう 3 件）

自由記述：

・大変わかりやすい説明で、理解が深まりました。

・ボランティアの募集情報、これから役人たちそうです。

・丁寧で分かりやすい説明をしてくださり、有難うございました。無理せず、気張らず、取り組むことでよいということなので、まずは試してみようと思いました。

・とてもいろいろなお話しを深くわかりやすく聞くことができ、よいきっかけをつくることができたと思います。今日を機に何かにつなげていけるように無理せず頑張りたいです。ありがとうございました。

7　担当者所感

・ボランティアの希望者に対し、圧倒的にボランティア情報が少ない（不十分)。活動情報がウェブサイトに出てないし、出されていても内容がよくわからないことが多い。ボランティア受け入れる側の施設や団体（川下）でのマネジメントのいかんによって、人のモチベーションは変わるので、紹介する側の担当者として

受け入れ側の体制、認識、など改善を働きかけたいところだ。

・今回の参加者も熱心な方ばかりだった。できるだけ多様な活動が紹介できるよう情報収集に努めたい。

NPO 設立の基礎講座実施報告

1　実施日：平成 29 年 5 月 13 日（土）10：00～12：00

2　参加者数：6 名

3　目的：NPO 法人の設立を検討する団体向けに、法人設立の基本を学ぶ。

4　講師：奈良雅美

5　配布資料：レジメ、参照資料、特定非営利活動促進法　他

6　内容：

①　NPO とは　　②　NPO 法人を取得する意味

③　特定非営利活動分野に係る事業　　④　設立手続き

⑤　情報公開　　⑥　認証を受けた後

7　参加者アンケート：

・NPO の設立について理解できたか？

よくわかった 4 人　だいたい分かった 2 人

・NPO（法人）の設立に向けて具体的な見通しがついたか

見通しがついた 1 人　見通しがつきそう 4 人　わからない 1 人

・NPO 設立についてもっと知りたいことは？他自由記述

―税金のこと等会計のこと、（情報）公開の方法、広報、HP 等

―少し知っていた内容も理解が深まって大変良い機会になった。他の団体さんと知り合えたりもするので、すごくうれしい。

8　所感

・NPO 設立間もない団体が基本的な運営面の問題でつまずくケースが散見されるため、本講座を企画した。

・参加者のうち 4 人は同じ任意団体からきており、NPO 法人化への議論が内部で熟しつつあると感じた。他の参加者の関心事と重なるところがあり、双方でコラボが生まれるかも知れないと期待している。

・NPO 設立支援をしていることの PR にもつながるので、次年度も改善しつつ継続して講座を開催していきたい。

平成 29 年度第 3 回リードあしや自主講座企画応援プログラム　報告書

１．実施概要

目　　的：地域の課題解決に資する講座企画を支援することで、団体の育成を図る。

対　　象：あしや市民活動センター登録団体

期　　間：平成 29 年 7 月～平成 30 年 3 月

方　　法：講座企画を公募し、選考を経て３団体を採択。資金面での支援、センター職員が企画案のブラッシュアップや効果的な広報の打ち出しを通じて、より効果的な講座づくりを支援する。

応募数：6 件

採択数：3 件

採択団体：（一財）日本熊森協会、AC31 期同期会南京玉すだれ「ひまわり会」、こくさいひろば芦屋

評価方法：下記の６つの観点について、市およびセンター職員 3 人が 5 段階で評価し、評価者の合計点を比較して原則選考した。

A　本プログラムの趣旨に沿っているか

B　団体の趣旨に沿っているか

C　テーマ設定の妥当性があるか

D　社会的ニーズに合致するか

E　社会的インパクトはどの程度あるか

F　費用は妥当か

一過性の性格が強いイベントの提案や、内容レベルが変わらない継続申請、受益者負担が可能な内容の申請を不採択にし、より社会公益性の高いもの、将来発展性が見込める案件を採択した。

２．支援内容

「企画運営のアドバイス」、「広報支援」、「資金支援」から応募団体が選択

①　企画運営のアドバイス

「支援シート」

昨年度と同様のシートで課題を視覚化し共有しながら進めた。団体ごとに面談、話合いの内容をもとに支援シートを作成。企画の立て方、スケジュール、ポイントを確認した。

「講座実施報告書」

講座終了後に報告書を提出してもらい、講座を今後につなげる視点で振り返りを行った。

② 広報支援

ちらしのデザイン、広報の方法、ニュースリリースの出し方などの具体的な助言を行うとともに、「広報あしや」に掲載を依頼、ウェブサイト（リードあしや、ボランタリープラザ）に掲載した。団体のもっているネットワーク、CRM（顧客マネジメント）に基づき広報戦略を立てるようアドバイスした。

③ 資金支援（助成金）

１団体あたり３万円を助成。講師料、材料費などに充てられた。

３．各団体の講座

団体名	日程	講座名	参加者数
AC31 期同期会南京玉すだれ「ひまわり会」	11/21-2/6	「南京玉すだれ」を楽しもう 全６回	９名（修了７名）
こくさいひろば芦屋	2/17-3/17	にほんご支援者養成講座　全５回	35 名
一財）日本熊森協会	3/24	クマのすむ豊かな森を未来へ	40 名

４．振り返り

【全体】

いずれの講座も定員を超えるほどの参加希望があり参加人数の面では目標を達成したといえる。ただ、講座後の出口については十分設計されていない問題も見られた。

【AC31 期同期会南京玉すだれ「ひまわり会」】

・講座の進め方、メンバーの受け入れ方などが素晴らしかった。AC 修了生に限るというメンバーシップのルールを崩すことが結果できなかったため、本講座の修了生のフォローが問題になった。別途新たなグループを立ち上げて、既存グループのメンバーも参加する形で発足することになる見込み。新たな動きへつなげることができた。

【こくさいひろば芦屋】

これまでで最も長期間の講座企画となり、参加者が集まるか危ぶまれたが広報が功を奏し、結果当初の募集人数を上回った。講座の目的と実際の内容については若干のずれがあったが、おおむね新たなボランティアを育成する

【一財）日本熊森協会】

参加人数は集まったものの、一般 7 名を除くとすべて会員であった。講演会をきっかけに入会者を増やすという当初の目的の到達はできなかったが、広報戦略の組み立て方を学ぶことができた。歴史がありメンバーも多い団体だが、ターゲット層が明確になっていないこと、ITC での広報が遅れたことなどもあり、目的の対象にアプローチしにくかった。今後、組織全体として広報戦略を練り直す。

5．今後について

本事業は予定通り 3 年で終了する。登録団体対象の企画講座支援としては一定の役割を果たしたと考える。講座の企画の組み立てやその参加者を集める広報の問題だけでなく、組織がどのように何のために事業を進めるのか、それを誰が担うのかを明確にして、事業サイクルを回すことができているかがカギになる。今後は個別の相談対応で支援していく。

NPO・ボランティアグループのための伝わる表現講座実施報告書

1　実施日：①平成 29 年 11 月 11 日（土）　②11 月 25 日（土）

2　参加者数：①９名　②11 名

3　目　的：手に取ってもらえる、分かりやすいチラシの作り方および、会報紙や報告書、ニュースレターなど伝わる文章の書き方を通じて、NPO・ボランティアグループの発信力を高める。

4　内　容：

①　なるほど！伝わるチラシの作り方

講師：入江陽子さん（特定非営利活動法人　市民事務局かわにし）

内容：現代、流通する情報量の 1 日分は江戸時代の 1 年分と言われるほど大量。情報を見つけてもらうために、情報を整理する、そろえる、メリハリをつける、といったチラシを作成するときのポイントを、実例を挙げて説明、また参加者の持参したチラシを参加者相互が意見を出し合いながら学ぶワークを行

った。

② プロに学ぶ！伝わる文章の書き方

講師：畑野士朗さん（神戸新聞社報道部）

内容：伝わる文章とはどういうものか、鉄則を３つ挙げて説明、読者を想定するなど、分かりやすい文章を書くためのポイントについて解説された。また、文章は逆三角形にまとめ、どこで読み終わっても意味が通るようにするのが重要であること。思いを言葉にするのでなく、思いを裏打ちする事実（ファクト）に語らせるようにと説明された。文章添削では改善のポイントを１つずつ指摘、具体的な修正方法についてアドバイスがあった。

５ 評価・振り返り：

１）総括

参加者のアンケートを見ると、おおむね好評だったといえる。チラシの作成は視覚的に理解しやすいが、文章の書き方は、理解はできるものの実際にはどうするのか、がやはり難しいところがあるようだ。個別具体なケースで相談に応じてアドバイスする。

本講座は3年間継続してきたが、参加者層を見ると一定のレベルアップが図られたと考えられる。今後は個別の相談対応とし、ニーズの一定方向性が見えた段階で別の角度から広報の講座を開催したい。

２）アンケート結果

①11/11

■講座の内容について

よくわかった８名　だいたい分かった１名

■講座の感想や講師へのメッセージなど

・とてもためになりました。実はブログを書いているのですが、今日学んだことは応用できると思いました。

・タイトルの考え方や付け方などをもう少し具体的に知りたかったです。今回学んだことをチラシに反映できるよう頑張りたいです。

・QR コードすごい！また今日学んだことを生かしてちらしづくりに励みたいです。参加者の名簿か自己紹介があるとよかったかも。

・チラシ作成の基本がわかった。実例をもとにしてわかりやすかった。

・大変参考になりました。

・持参したチラシに意見を聞けて大いに得ることがありました。ポイントを実例で教えてもらって分かりよかった。
・勉強になりました。ありがとうございました。💜💜
・人に手にとってもらって、読んでもらって、参加してもらうためのくふうがよくわかりました。
・ビフォア/アフターがあって、チラシのどこを直したらよいか、分かりやすかった。QR コードやワードリンクなど、ためになりました。

②11/25

■講座の内容について

よくわかった８名　だいたいわかった２名　わからなかった１名

■広報についてより知りたいこと

・文章を構成してくれる人がいない場での文章の書き方のコツ
・HP、FB,チラシなど様々な広報の方法がありますが、年齢別、ターゲット別に FB やチラシなどの効果がどれくらいか知りたい。

■講師へのメッセージ、講座全般について

・具体的な例を見せていただき、わかりやすかったです。ありがとうございました。
・ありがとうございました。それができれば、苦労しないよなあ、と思うことの連続でした。わかりやすい語に置き換えるためのトレーニング法などがあれば知りたかったです。文章で書くのは本当に難しいです。
・基礎的なことの書き方を知りました。主語と述語の関係は、話し言葉においても主語を省く癖があり、相手に伝わり方は書く時、話すときにも大切だと実感しました。自分の文章をもう一度ふりかえってみます。良いタイミングでした。新聞の見出しのタイトルは、読み手は引き寄せられるそのプロセスを具体的に知れ、とても参考になりました。
・実際の新聞記事づくりの過程が勉強になりました。
・ありがとうございました。文章作成のさまざまなコツがわかりました。
・くわしい説明でわかりやすい文章の書き方がよくわかりました。
・原稿を出せなくて残念でした。ご意見をききたかったです。
・人に理解してもらう文章はとても難しく日々とても苦労しています。今日の講座でよりわかりやすい文章を書けるようがんばります。
・誠実なお人柄の感じられるお話しでした。新聞の記事が出来上がる経過や言葉の

選び方の基準などとても勉強になりました。

・手直しの過程がわかってとてもよかったです。

・実際の新聞を用意されるともっとわかりやすいのでは。

【講座の様子】

11/11　チラシの作成編　講師の入江さん

11/25 文章の書き方講座　講師の畑野さん

11/25　文章の書き方講座

第 29 回芦屋さくらまつりボランティアコーディネート事業報告書

1　実施日：４月１日（土)・２日（日）８時～21 時　４月３日（月）９時-１０時

2　参加者：８０名　(内１１名個人）７団体(６９名)

3　参加団体：朝日ヶ丘町自主防災会・尼崎信用金庫阪神芦屋支店・ＡＣ３０期会・ＡＣ２０期はたち会・ＡＣ２９期お掃除クラブ・ＡＣ３２期サニーカフェ・芦屋やまぼうし

4　活動内容

・１日(土)８時からの活動の方は、ゴミ箱の設置及び、会場内テーブルの清掃

・「燃えるゴミ」「ペットボトル」「ビン・缶」に分けて回収し、ゴミステーションに集める。

・２日(日)閉会と同時に、ゴミ箱撤収

・３日(月)まつり後の清掃

5　活動の流れ

受付→オリエンテーション→活動（途中休憩あり）→振り返り→終了

6　ボランティアコーディネートの振り返り

【コーディネートに関して】

・参加者が途中で帰られるケースが７件あった。(AC29 期お掃除クラブ、AC30 期)

・高齢者の団体参加の場合、活動が緩慢になる場合があったが、「一言」にあるように活動を楽しむことができたようだ。

・夜に個人で参加いただいた方は、戦力となった。

・ボランティアの受け入れタイミングをずらしたほうが良かった。

【活動全般】

・一時的に会場内が混雑し、ゴミ移動が困難になる時もあった。

・清掃ボランティア専用のルナホール横の小道を出店テント運営者の休憩所や、物置に使われて通行しづらかった。また、注意は聞き入れられなかった。

【会場に関して】

・例年に比べて来場者が少なかったせいか、ゴミが少なかったように感じた。特に汁物の廃棄物は少なかった。

・マナーが目立って悪い来場者があった。特に若い世代に多かった。注意すると聞き入れていただいた方もある。

・河川敷の立ち入り禁止ロープから出たり、川に降りたり、壁を上ったりする子どもがあり、その様子を見ている親に注意喚起した。

・事前に会場近隣の自治会からゴミの苦情をいただいていたので、当日及びまつり後に点検した。まつりで出たと思われるゴミは数えるほどしかなかった。

7　今後の対応

【コーディネートに関して】

・時間配分と活動者数の制限を徹底する。

・出店者から清掃ボランティアとして参加を出店条件にする。

【準備に関して】

・市と備品確認及び、最終補完場所の共有を徹底する。

【会場及び来場者に関して】

・ゴミの分別を広く呼びかける。

・飲食テントから出る竹串や、発泡スチロールをエコ回収できるよう啓発する。

８　ボランティア参加者からの一言

【活動への助言及び感想】

・朝のボランティア８時～１２時を８時～１１時が良いと思います。

・時間を８時～１１時くらいがベストではないでしょうか。１２時までは１１時からの人が入るので。お手伝いできてよかったです。

・昨年ほどペットボトルは多くなかった。流れが少なかった。(朝日ケ丘町防災会)

【来場者に対して】

・観桜の皆様はお行儀が良くて思っていたよりゴミが少なかったです。

・皆様マナー良くゴミを持ってきてくださいます。

【職員に対して】

・皆様ご苦労様でした。出口様ありがとうございました。

・午前中ボランティアにお茶・パンなどのお心遣いありがとうございました。

【ボランティア活動について】

・初体験、春の半日、来年も、他３件

・楽しくボランティアをさせていただきました。来年も絶対参加するぞっー！（他、7 件）

・すごくやりがいがあって楽しかったです。ありがとうございました。（他１件）

・皆様から感謝の言葉をいただき、気持ちよく清掃できました。

・天気が回復してよかったです。歩くゴミ箱で綺麗になりました。(他２件)

・朝日ケ丘自主防災会です。来年も１１時～１３時に固定します。

・さくらはまだか！暑い、しんどい！

・ゴミヤさん　ご苦労様と声をかけられ！

・晴天に恵まれ、大勢の人手で愉快に楽しく談笑されている方々を見るだけで心地よい１日でした。清掃ボランティアの仕組みも上手く準備されており、運営は順調でした。来場者のマナーも良く「分別」は良くできていました。しかしながら、シニア層に清掃ボランティアに依存しないとならないのは悲しく思えました。ワイン瓶は重く、燃えるごみはかさ高く運搬が大変でした。安易なシニア期待は慎み、出展者より各２名くらいで担当する等を考えてみてはいかがでしょう。また、一部出展者は分別せず、黒ビニールに入れて捨てる（竹園）等、ルール不徹底でした。

【その他】

・芦屋は普段から清掃がよくできています。

・桜が少なく残念でしたが、来られる方々の笑顔が嬉しかった。

・桜はなくてもさくらまつりは人華でにぎわう!!(他２件)

第 29 回あしや秋祭りボランチティアコーディネーション実施報告書

1　実施日：平成 29 年 10 月８日（日曜）

2　担　当：金子　美保

3　会　場：精道小学校グラウンド

4　主　催：あしや秋祭り協議会

5　参加者：24 名

（サニーカフェ５名、尼崎信用金庫５名、クラーク高校 14 名）

6　内容について

1）目的：来場者がごみの分別を学び、基本はごみを出さない、持ち帰ることを理解し、「気持ちのよいきれいな、ごみのない祭りを楽しむ」ことを目的にボランティアをコーディネートする。

2）内容：ごみ受付、駐輪場の整理、校内ごみの見回り

ごみ受付では、ごみの分別をボランティアによる誘導および、持ち帰るよう促した。

駐輪場では、自転車の出し入れの補助、声掛けを行った。

見回りでは、校舎の裏やトイレなどにごみがないかを確認した。

7　検証：

・ボランティア活動に関しては、午前は年齢が様々だった為、活動内容を確認し体力的なことも配慮し配置した。昨年の参加者やさくらまつりの参加者もおり、活動の目的や、内容もスムーズに理解してもらえた。午後は高校生のみの参加だった。活動内容を説明し、始まりの１時間のみ配置した。その後は、自分たちで話し合い、活動場所を決めて動けるように促した。午後は気温が高かったが、自分たちでまわりを気づかい、休憩や交代を行っていて良かった。

・駐輪場に関しては、昨年同様、西側、東側駐輪場に自転車が収まらず多くの人が東側駐輪場外（43 号線側歩道）にとめていたため、警備の方にお任せした。自転車の出し入れはボランティアが声をかけ補助していたのが良かった。

・ごみに関しては、昨年同様に少なかった。昨年からのごみ受付設置により、各テントでのごみの回収や参加者の持ち帰りが多く見受けられた。校内の見回りを行ったがきれいだった。

・ごみ受付設置も少しずつ芦屋の祭りで定着しつつあるのではないかと嬉しく感じた。

8　今後の対応：

駐輪場の設置場所の見直しは必要かと感じた。ごみ受付でも、当日子ども限定でごみ受付体験や、ごみを集めてくじびきやスタンプ集めて何かあったりなど、ボランティア参加者も来場者も少し楽しみがあっても良いかと思った。

9　ボランティア参加者の感想：

分別の理解と持ち帰りが見られたこと、ボランティアと来場者の交流もあり一体化して活動している感じがあり全体的に良かった。駐輪場は利用者が多く場所を再検討した方がよいと声があった。

以下は、アンケートからである。

・子供もきちんと入れてくれ、間違えても声掛けをすると入れ直してくれ、笑顔が可愛かった。

・小さな子の分別の教育にもつながるので良いと思いました。

・みんなと協力して動いて、行動することが最高に楽しかった。
・同じ様なボランティアに参加した。今回もごみ受付や、見回りをして良い仕事が出来ました。
・昨年は、プレゼントがあったのに…という顔が多くみられた。
・子供たちはお土産やスタンプがあるのを楽しみにしているようだった。
・ごみ袋を持って自分からもらいに行っても良いかと思った。
・ごみの持ち帰りや、きちんと捨ててくれる人が多くて良いと思った。
・祭り来場者がきれいに保とうと言う気持ちが伝わった。
・駐輪場の整理が大変だった。スペースを考えると通路を確保出来るのではないかと思った。
・ごみが他に捨ててなく、とてもキレイなまま、学校にお返しできるので嬉しく思います。
・休憩スペースが狭いかと思った。
・祭りのボランティアの方がどのような仕事をしているか知ることができた。

地域課題解決の仕組みづくり　芦屋 777 プロジェクト実施報告

１　実 施 日：平成 29 年８月１日（火）～８月 31 日（木）

２　参加団体：67 団体、３個人

学校（精道幼稚園、小槌幼稚園、潮見幼稚園、学校法人阪急学園いるか幼稚園、芦屋市立精道中学校、県立芦屋国際中等教育学校、甲南高等学校、クラーク記念国際高等学校、県立芦屋高等学校、芦屋学園、神戸芸術工科大学、甲南大学、夢保育園）

商業団体・法人（浜東商店街、打出商店街、浜芦屋商交会、芦屋市三八会、芦屋本通り商店会、川西商店会、芦屋山手サンモール商店街、駅西商店街、ラ・モール芦屋名店会、ホテル竹園芦屋名店会、モンテメール、ラポルテ本店名店会、ラポルテ東館名店会、芦屋浜センター、芦屋米親会、水道橋商店街、芦屋なるみか、DTPbasecamp、こじゃる、赤司法務事務所、芦屋青年会議所、芦屋市商工会青年部、芦屋市商工会女性部、芦屋市商工会）

NPO・協議会・各種団体（芦屋市教職員組合、芦屋市身体障害者福祉協会、芦屋地区更生保護女性会、芦屋映像倶楽部、あしや健康倶楽部、芦屋 Tio クラブ、オンライン学びや、日本宇宙少年団六甲分団、精道小 smile ねっと、精中応援隊、(特活)兵庫県暮らしにやさしい防災・減災、(一社) 日本熊森協会、芦屋ライオンズクラブ、芦屋業平ライオンズクラブ、芦屋ハーモニーライオンズクラブ、芦屋東ライオンズクラブ、(認特)フードバンク関西、Cool Kids club、生活協同組合コープこうべ第２地区、サニーカフェ、(特活)あしやＮＰＯセンター

芦屋市（市民参画課、男女共同参画推進課、地域経済振興課、生涯学習課、青少年育成課、学校教育課、芦屋市立青少年愛護センター、芦屋市消費生活センター、あしや市民活動センター）

個人（甲斐、城村、長谷川）

３　協力団体：１４団体

学校（芦屋市立精道小学校）

NPO・協議会・各種団体（兵遊協・はぁ～とふるふぁんど、芦屋市社会福祉協議会、芦屋観光協会、(特活)芦屋市体育協会、芦屋美術会、（一社）芦屋ハートフル福祉公社、）

芦屋市（政策推進課）

４　後　　援：５団体　芦屋市、芦屋市教育委員会、芦屋市ＰＴＡ協議会、芦屋市コミュニティ・スクール連絡協議会、芦屋市子ども会連絡協議会

５　参加者数：27 日イベント当日 4,500 人

ふれあい Café　804 人（運営団体 14 団体 114 人、参加者 690 人）

子ども新聞　22 人（小学生 2 人、中学生 1 人、高校生 14 人、神戸新聞社 3 人、県立芦屋高等学校教師 2 人）

６　内　　容

(1) 目　的：将来を担う子どもたちが、地域を支える多様な団体と関わり、この活動に参加し、またおとなも市民活動に関わることによって、繋がりをつくること。

(2) テーマ：芦屋の「市民力」を高め、笑顔のまちに！

(3) 期　待：多様な人々がつながる（市民相互の繋がりができる）

市民が主体となる場がある（次世代を担う地域リーダーが育つ）

芦屋の魅力がわかる（まちが好きになる）

(4) 内　容：記念スタンプ、芦屋歩記、神社の「３つのスタンプラリー」

14 団体による 28 のプログラムが開かれた「ふれあい Café」

大学生のサポートで子どもたちと一緒に怪獣の絵を描いた「あしやキッズスクエア」

家庭で余っている食材を集めた「フードドライブ」

カトリック芦屋教会で開催した「ウルトラ写真展」

障がい者の駅ホーム転落防止を叫んだ「７つの知恵袋」

神戸新聞社アプリ使用の小中高校生による「芦屋 777 新聞」発行

幼稚園児作成の「子ども立体怪獣展」

27 日の精道小学校でのメインイベント「ウルトラセブン上映会」「ウルトラセブンヒーローショー」「熱気球」「ASHIYA 夏フェス」「合成映像」、テントブースや、物作り体験

(5) 振り返り（事務局）：

・学校を含め５０以上の多種多様な団体の参加があり、特性を生かした事業を展開した。半面、団体と連絡を取り合う、共有することが難しい場面も多々あった。

・７回の実行委員会を開催し、毎回 50 人近くの出席者があり、新着状況を共

有し、内容をメーリングリストで流し、全体共有に努めた。

・メインイベントの直前に、当日ボランティアのオリエンテーションを開催し、最終確認をパートごとに行った。当日のボランティアは高校生を含め 100 人以上となった。

・ＳＮＳ効果からか、芦屋市外からウルトラセブンのファンが訪れ、芦屋のまちを散策していただいた。

・１カ月と長い事業であり、特に「ふれあい Café」をリードあしやで開催したことでセンター利用率が高まった。

・教会、商工会、新聞社と通常繋がらない団体とのつながる機会を持てた。

(6) 効　果：

・これまで利用していない団体、個人がリードあしやに訪れ、認知度は高まった。

・団体や、学校が繋がり、次年度の事業の取り組みについて相談しているところも出てきている。

・市民と行政が繋がり、官民の協働の一例となった。

・市内外の方に芦屋を知ってもらえた。

・プレスリリースをしたことで、広報が行き届き、多数の市民の方から好評をいただいた。

・子ども新聞を発行したことで、成果物として残すことができた。

(7) 今後の対応：

・メインイベント時は、高校生を中心に学生のボランティア参加が 100 人ほどいた。この繋がりを次年度に活かせるよう話し合いの機会を持っている。

・共有を図るためにメーリングリストを作ったが、これを生かし、団体の広報の場にできればと考える。

・カフェは兵庫県の助成金で開催したが、今後、リードあしやのメイン事業になるべく、市と協議していきたい。

(8) 参加者の感想：

・ロケ地巡りをしました。素敵な街でした。

・ウルトラマンでがっちり地域と絡めたイベントを見たのは初めてです。きっと提供側に関わった全ての人たちが色々な準備やアイデアを出し、調整も大変だったろうと想像できます。尊敬と感謝しかありません。

・ウルトラヒーローにイベント自体がリスペクトを持って企画され、ショー自

体は芦屋というまちに敬意を持ったシナリオで演出され嬉しく思った。

・教会のウルトラ写真展を見てきました。親切にいろいろ教えていただきました。

・なぜかこの夏は芦屋にずっといる。

・子ども想像力は時に大人のセンスを凌駕するときがある。（子どもの怪獣絵展を見て）

・転落防止チラシ配布について、心から応援します。（チラシを貰いにきてくださいました）

芦屋 777 プロジェクト　振り返り会

日時：平成 29 年 10 月 10 日　17 時～20 時

会場：リードあしや　会議室ＣＤ

参加者：学生（金木、黒住、山森、柗本、田中、柴田、〇島、先島、久永、中西、平池、坂野、寺田、太田、神田）

一般（日高、神吉、大塚、中村、金木、池田、田村、杉田、山田、宇佐見、大橋、大久保、藤木、奈良、出口、横山、橋野、南波、西畑、小泉、坂川、津川、三浦、武田、福井）

・全体としては、学生、企業、NPO、行政と多様な団体と繋がり知り合えたことが、一番のメリットと語った人が多かった。ここまでの繋がりを持ったイベントはかつてなかったとも言える。この繋がりを生かした今後の活動が期待される。

・777 プロジェクトの生みの親「あしや子ども笑顔ネット」の目的とした子どもが自主的に参画できる機会を持ち芦屋を知りより愛せること、成人した後もこの経験を生かし活動人の一人となることが期待できるイベントとなったと言える。

・最後にヒーローショーでのことばを実行委員長から皆様に贈った。「みんなの応援の声は、いつだって私たちの力になる。この街は、かつて困難に負けずに立ち上がった素晴らしい街だ。これからも、みんなの力で、この街の笑顔と平和を守ってほしい。私たちは、いつまでも君たちを見守っている。」

以下、参加者の感想である。

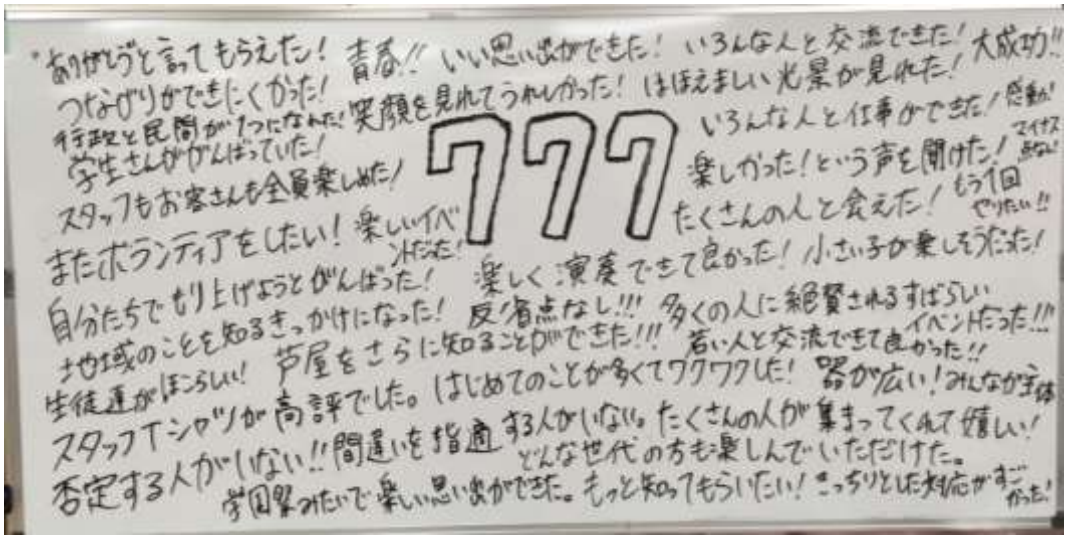
・自分たちの活動で手いっぱいで、他団体との繋がりができなかった。（あしぞう）

・組織運営を学ぶことを目標とした。学生がよく動いてくれたことに感謝、一人の力ではできないことが多いを実感した。（体育館担当リーダー）

・暑い夏を学生と青春を楽しめた。いい思い出ができた。これからもいい事業をやっていきたい。また、芦屋のために力を貸していただきたい。（777 事務局）
・嬉しかったこととしては、スタッフＴシャツを着用していることで色々な人と繋がった。気球に乗れなかったことが残念。（県立芦屋高校）
・子ども連れの人たちのたくさんの笑顔を見ることができた。来年も頑張りたい。（県立芦屋高校）
・ウルトラセブンを楽しみに子どもたちが体育館に向かう姿がほほえましかった。靴袋配架の時広く見渡し配布することができなかったことが残念。（県立芦屋高校）
・他の団体と協力しながら仕事ができたことが良かった。（県立芦屋高校）
・会場等を事前に把握ができていなかったため、問われたことに応えられなかったことが反省点。ありがとうと言われたことが嬉しかった。（県立芦屋高校）
・会場周りの道路の駐停車に注意をする勇気がなかった。備品を壊した。もっと居たいとぐずる子や楽し気に帰る親子を見て嬉しかった。（県立芦屋高校）
・新聞をみんなに配れなかった。小さい子に会えた。（県立芦屋高校）
・靴入れの配布中、会場の情報が少なく聞かれたことに答えられなかった。全体的には楽しかった。（県立芦屋高校）
・笑顔で客を迎え入れられた。ボランティアの依頼は芦屋高校へ。（県立芦屋高校）
・音楽を通して皆さんと通じられたことを嬉しく思う。客カウントに戸惑った。（県立芦屋高校）
・演奏中に大声で話す人がいた、演奏をメインにしてほしかった。自分たちで頑張って取り組めたことがよかった。（県立芦屋高校）
・出口から入ってきた人が数人いたが注意できなかった。演奏は楽しくできた。（県立芦屋高校）
・対象が小さい子であったことが魅力だった。来年も続けて、子どもが大人になり自らも活動できる大人になることを希望する。ボランティアの人が足りなかった。ボランティアに今後も参加したい。（県立芦屋高校）
・地域のことを少しわかるようになった。総勢 45 名参加。学生を誇らしく思う。親でも教師でもない第 3 の大人と一緒にできる機会を貰えた。今回は、学生が自主的に様々な形で参加できたことがよかった。（県立芦屋高校教頭）
・7 月 8 月と準備ができなった。当日は小さい子どもにたくさん来ていただいた。ボランティア参加を今後もしていきたい。（芦屋大学）
・親子で参加できたことがよかった。（芦屋大学）

・ＳＮＳ等の広報等を駆使し市内外の人多くの人に来ていただきという気持ちが大きかった。芦屋をよく知る機会にもなった。（学生）
・大学のホームページで知った。色々な人と交流ができたこと、芦屋を知ったこと、とてもよかった。（甲南大学）
・反省なし！みんながボランティアだから。とても楽しかった。終わってから多くの方に「次はいつ？」と声をかけられた、これこそが成功だと言える。色々な方と知り合えたことがよかった。（副委員長）
・障害をお持ちの方が市内に 3000 人学生に沢山のご協力を戴いた。どなたかの助けになればいいなと思う気持ちを大切にしてほしい。（芦屋市身体障害者福祉協会）
・水ロケットには 30 人の幼稚園、小学校の参加があった。学生の書いた新聞もよかった。スタッフＴシャツが目立ち、声をたくさんかけていただいた。（宇宙少年団六甲分団）
・合成写真に準備及び当日も手がかかった。若い人との交流ができたことが嬉しかった。（芦屋映像倶楽部）
・どんな企画も否定がなかった。色々な人が巻き込めた。リーフレットの電話番号を間違えたが、それに対しても温かかった。（777 事務局　工場長）
・そもそもは「あしや子ども笑顔ネット」からの発信であることを忘れないで欲しい。今後、他団体と繋がりたいことや、団体の困りごとなどあれば「あしや子ども笑顔ネット」に相談をしてほしい。（777 事務局　小ボス）
・団体がつながったことが嬉しく思っている。「学びや」学習ボランティアもよろしく。（精小 smile ねっと　あしや子ども笑顔ネット委員）
・学園祭のように楽しかった。（精中応援隊）
・販売　校舎と校庭、両方での販売で多忙を極めた。（商工会　販売リーダー）
・ご案内中に長い列を見て、車いすの方が帰られたことが切なかった。良かったことは楽しかったと様々な年齢の方からも言っていただけたこと。（市民参画課課員）
・あしや子ども笑顔ネットから 777 プロジェクトが立ち上がり、行政は？と言われたが市民が主体的に動くことが目的であり、他団体がつながったことは素晴らしいイベントだった。行政の中でも評価が高かった。（市民参画課課長）
・会議に参加する学生の意識の高さに驚いた。また、当日の対応も丁寧で全てが楽しかった。（商工会副会長）
・誰にカメラを向けても笑顔を向けてくれた。つながることは楽しい、継続を。（ハナヤ勘兵衛）

・事務局としては関わりが薄かった。（芦屋市商工会事務局）
・色々な方と協働し成功した中に参加したことがよかった。（男女共同参画推進課）
・チラシ、ポスターはギリギリまで諸事情で配布ができなかったが、当日の参加者は4,500名、ヒーローショー2,000人、最遠方としては茨城県から来られた。感動したという手紙もいただいた。円谷プロが初めてで1回限りのイベントの集客力に驚いた。芦屋市は77年前に戦時中混とんとした時代に生まれている。阪神淡路大震災の経験も含めた芦屋市に重きを置いた台本を円谷プロが作ってくれた。良かったことはボランティアの皆様のおかげです。若い皆さんにとってこの経験は、もう少し大きくなってから行かされるだろうと思う。（実行委員長）



夏休み！わくわくスペシャル チャレンジ・チャレンジ・チャレンジ実施報告

1　実 施 日：平成 29 年８月１～５日（火～土）

2　参加者数：子ども 201 人　団体 64 人

3　参加団体：12 団体（コープこうべ、商工会女性部、にろく会、宇宙少年団六甲分団、オンライン学びや、トミ＆ヨシ、芦屋点字友の会、日本現代作法会芦屋支部、遊遊、葉っぱリサイクル、あしやエコクラブ、Cool Kids club）

4　プログラム：１６コマ

5　振り返り

(1) 目　的：市民活動団体がプログラムを提供して、夏休みの間の子ども達の居場所をつくり、市民活動団体の活躍の場にする。(子どもの保護者世代へのアプローチ)

(2) 成　果：

- 昨年度のリピーターが多く、保護者同士のネットワークの強さを感じた。他校の子どもたちと交流や、学年を超えての交流が多くあった。
- 複数日の参加者が多かった。
- おにぎり交流は、祖父母に近い年代との交流であったが、団体にとっては食材以外に、テーマや段取りに取組み、活力を得たとの感想があった。
- 学びの場の団体からは、子どもたちが熱心に受講してもらえ良かったと感想があった。
- わくわくスペシャルの後に「ふれあいＣＡＦＥ」を開催していたが、後半は、

子どもたち自らボランティア希望者があり、手伝ってくれた。

(3) 改善点：

- 他施設が同日に無料講座を開催したため、キャンセルが相次いだ日があった。他施設とのネットワークの必要性を感じた。
- 参加者が少ない日があったが、話を聞いて欲しい子どもも多くいることが分かり、適正な人数があるということを次回に活かしたいと考える。
- 次のプログラムまでの子どもたちの待機場所が必要。
- 学びの場の参加団体が、会員１人だったり、時間に遅れてきたり、自団体だけで準備できないところがあった。申込制にし、自団体で責任を持って完結できるよう仕向けるようにする。
- スケジュール管理ができていない団体が多いように感じた。その辺りも支援できるプログラムにする。

【当日の様子】

１日：災害サバイバル（コープこうべ）

１日：ストローグライダー・飛行機
(宇宙少年団六甲分団)

２日：おにぎり交流（商工会）

２日：読書感想文（オンライン学びや）

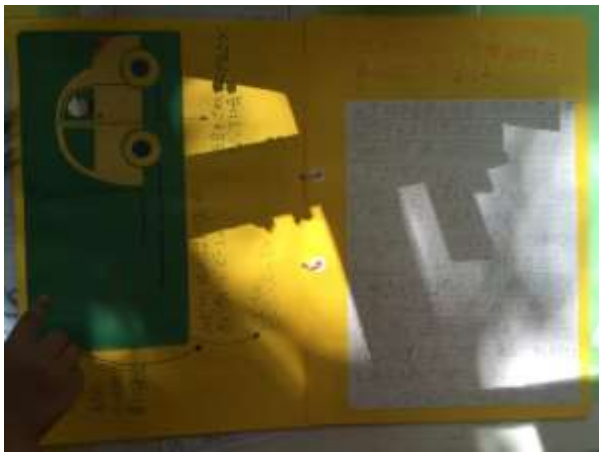
２日：楽しい折り紙カレンダー
（トミ＆ヨシ）

３日：お友達のお家にいったら（日本現代作法会芦屋支部

４日：英語で歌（CoolKids）

４日：打ち水（エコクラブ）

夏休みわくわくスペシャル参加者：宮川小学校３年生　大西みくらさん



「冬のふれあいカフェ」報告書

１．日　　時：①平成 30 年 1 月 13 日（土）13：00～16：00
②平成 30 年 1 月 20 日（土）13：00～17：00

２．参加団体：①芦屋市立山手中学校茶道部（14-16）、赤司法務事務所（13-16）
②芦屋市立精道中学校茶道部（13-15）、あしや健康倶楽部（15-17）

３．参 加 者：①24 名（山手中 16 名）、1 名（赤司法務事務所 2 名）

②11 名（精道中 9 名）、2 名（あしや健康倶楽部 2 名）

4．内　　容：①お茶のお点前をする。（山手中学校）

相続、遺言等の無料相談をする。（赤司法務事務所）

②お茶のお点前をする。（精道中学校）

初笑い、ラフターヨガをする。（芦屋健康倶楽部）

5．全体の振り返り

・パフォーマンスの参加者が少なかった。

・山手中学校に精道中学校がお客さんとして参加したことで交流ができた。

・茶道の実施時間が 1 日目と 2 日目が異なっていたので、間違って来館し参加できない方がいた。

6．今後の対応

・広報を当センターだけで行うのではなく、実施団体にも協力を呼びかける。

・4 月からはカフェの時間を一律にし、周知しやすいようにする。

ボランティアの受け入れ方講座実施報告書

1　日　時：平成 30 年 2 月 22 日（木）14：00～16：00

2　参加者：6 名

3　目　的：ボランティアをどのように受け入れられれば、豊かな施設・組織になるのか考える。ボランティア受け入れの具体的な手順やポイントを確認し、モデル事例や参加者の事例を検討し、コーディネーションの肝を学ぶ。

4　対　象：現在ボランティアを受け入れている、またはこれからボランティアを受け入れようとする施設や組織の担当者など

5　内　容：ボランティアマネジメントの基本を確認、ボランティアプログラムの事例検討、ボランティア受け入れの状況について紹介など（参加者から）

①ボランティアが参加する意味

②ボランティアマネジメントのポイント

③ボランティア受け入れの具体的な手順（流れ）

④ボランティア受け入れの事例検討

6　評価：

(1)アンケート結果（回収６件）

①講座の内容

よく理解できた５名　だいたい理解できた１名　あまり理解できなかった０名

②講座の時間

ちょうどよい６名　もっと短い方が良い０名　もっと長い方が良い０名

③ボランティアの受け入れについて知りたいこと（自由記述）

・今回いただいたフォーマットを参考に、色々なことを整理していきたいと思います。その過程で、悩んだ時は相談させてください。

・具体的にボランティア団体が知りたい。

・アンケート作り、また相談に乗ってください。感謝状もどうしたものか。

④本センターに期待したい支援や要望

・毎月定期的に来てくださるボランティア（音楽や歌）などをご紹介いただけたらと思います。

・タイムリーなセミナー。ありがとうございました。

(2)担当者振り返り

・昨年度の基礎的な事項に加え、今回は事例を中心に検討する形で進めた。事例検討にもう少し時間を取れたらよいが時間的に非常にタイトになる。忙しい施設職員の方にとって２時間は限度のようなので短時間でまとめ、実践の場で生かせるようと考えている。

・芦屋市内だけでなく、伊丹市や神戸市からも参加があった。阪神エリアでこの切り口で学ぶ場が少ないのではと思われる。

・施設担当者の直近の問題はレクリエーションのボランティア（単発の）が多く目

立つ。全体対象者の共通項になるのは致し方ないが個別的なニーズに対応する視点も取り組んでよいのではないかと感じた。

・リスクへの警戒感が強く、積極的になりにくい要素もあるようだ。ボランティアの意義について理解を進めていきながら、成功事例を共有するなど、少しずつ組織内での認識を高めていけるよう担当者に働きかけたい。

・今後は、個別に相談に乗る形でフォローする。

・次年度も、構成、内容を見直しながら、講座を開催したい。

【講座の様子】

Facebook 活用講座実施報告書

1　実施日：2018 年 2 月 3 日（土）

2　講　師：ピクトロン・プランニング　代表　杉山敦氏

3　参加者数：11 名

4　目　的：ボランティアグループ、NPO がソーシャルメディアを団体の活動に効果的に生かすための知識とノウハウを学ぶ

5　内　容：

・Facebook のルーツから知る特徴

・コミュニティツールとしての使い方

・広報ツールとして Facebook を使う　ほか

6　評価・振り返り：

(1)アンケート結果

①講座の内容について

よくわかった１　だいたい分かった６　わからなかった１　無記入１

②広報で FB を活用できそうか

活用できそう４　今はわからないが検討したい２　無記入３

【自由記述】

・実際にやってみますが、分からない場合のQ&Aはどうすればよいのでしょうか？

・丁寧に説明してもらえた。実際に使っていかないとむつかしい面も多々あります。

・非公開のFB利用、設定などについて知りたい。現在利用しているが多機能。

・団体のページを作成した後の、効果的な広報方法など具体的な操作方法を教えてほしいと思いました。（例、この機能を使ったらこのような効果がある。イベントの告知がきっちり届く。参加者が増える方法など）

・もう少し詳しく聞きたいことがありました。言葉が少しわからないことがありました。「インターフェイスにする」とか。

・クラウドファンディングなど知らなかったので面白いと思った。事業所のページを作ってみたいです。

・地理に不慣れ。場所が分かりにくかった。少人数でいい。

・レベルが高すぎでしたというか、私の勉強不足です。もっと初心者向けだと思っていたので。

・FB使いこなしていますが、それであっているのか。わからなくて参加しましたが、今回はどうもわからなかったです。それと参加者のレベルが違うので難しいですね。

(2)今後について

・講師の話と参加者のニーズが必ずしも合致していなかったところがあり、フォローアップのアドバイスが必要。個別に相談に応じる旨伝える。

【講座の様子】

交流の輪をひろげる地域課題解決のためのIT活用講座

1　実施日：平成30年３月３日（土）18:00-20:30

2　目　的：参加者の所属団体のイベント、講座の集客力アップにつなげていただく。

「ためまっぷ」アプリの普及

3　参加者：30 人（主に 30～40 代女性、50～60 代アクティブシニア）

4　内容について

(1) 対象：市民団体運営者、これから市民団体を立ち上げようとしている人

(3) 内容：参加費　無料

IT の専門家をゲストに招き、初級～中級レベルの IT 活用方法を講義いただくことにより、紙ベースのチラシ、口コミのみでイベントの広報をしている市民団体に IT による広報の方法を身に付けていただく。

第 1 部：講演：松村　氏（コミュニティリンク）
（フェイスブック広告、アクセス解析）

第 2 部：講演：清水　氏（ためまっぷプロジェクト）
（ためまっぷアプリの利用方法）

5　アンケート結果

1　講座の内容について

大変満足　１３　　満足　9　　普通１　　不満０　　大変不満０

理由：大変満足

・地域活動に対する IT 活用について大変わかりやすくとても良い視点だと思った。

・Facebook ページの広告について、詳しく話が聞けました。「ためまっぷ」も聞いていましたが、作り方が分かってよかったです。

・知らないことを知れてとても楽しかったです。「ためまっぷ」興味津々。まえばちゃんステキです。

・集客について IT を使いどこから始めたらよいのか、手がつけられない感じだったのですが、少し前へ進めました。ありがとうございます。

・2 人の講師の方がとても丁寧に分かりやすくお話をして頂いて、非常に分かりやすかったです。お 2 人に共通していたものは目的・信念等がしっかりしており、それを実現するために IT の活用やためまっぷ等のアプリ等を広めていこうとしておられるのがひしひしと伝わってきました。

・わかりやすかった。ためまっぷ、開発の思いかかわるようになった経緯などを（自己紹介）知ることができてよかったです。

・あたたかい時間を過ごせました。ありがとうございます。仕事の為、遅れての参加になり、第一部、途中参加となりそこだけがとっても残念です。

・Facebook 広告については具体的に管理画面を見せてくれたのがとても役に立った。

ためっぷについては存在を知ることができて良かった。少し見ただけでも興味を惹かれるイベントがいくつもあった。

・Facebook 広告の仕組みを分かりやすく解説していただき大変参考になりました。ためまっぷもゆるい IT の必要性がよく理解でき、色々なことに活用できると思いました。

・自分が関わっている阪神南地域のビジョン委員会が集客に困っていたので、その問題を解消できそうな先が見えてきました。

理由：満足

・Facebook の活用による広報やためまっぷアプリ活用等知ることができた。

・勉強になりました。

・Facebook 広告について実際の画面（操作）を交えて説明していただけたので分かりやすかったです。ためまっぷは地域のイベントについてまとめて掲載しているサイトがないとの地域課題の解決策になるなと新たな視点をいただきました。

・Facebook 広告について、大変勉強になった。事務所の Facebook ページに再度チャレンジしようと思った。ためまっぷのプレゼンも回を重ねるごとに良くなっていると感じた。特に、最後の 3 枚のスライドがステキでした。まえばちゃんの動画も。

・IT の話は少しむずかしく、Facebook や SNS 等興味はありますが怖いです。

・第一部は実際使用してないので今一つ身近に感じなかったが今後は活用してみたいと思いました。第二部は即戦力になりそうで地域イベントの進路がみえてきた気がします。

・今まで自分にはなかった視点の話が聞けました。人に伝えていく手段・ツールとして自分のスタイルにあった方法をいくつか見つけていくきっかけになりそうです。

理由：普通

・ためまっぷについては、初めての内容だったので思いからみ方などを聞けてよかったですが、Facebook については個人の所からの広め方を知りたかったのでそうなのかぁーでおわりました。

２　団体の広報等で活用できそうか？

活用できそう 20　　今はわからないが検討したい 3　活用することは難しそう 0

自由記述

・IT の知識が poor なのがよくわかりました。もっと積極的に取り組まなければ、

・横山さんの司会がとても良かったです。まえばさんの PR 動画が良かったです。自由に動画つくれるのも、みんなが作れるのは良いことだと思いました。
・とくにためまっぷについての講座は良かったです。ありがとうございました。
・事務局の阿部さんに今回の講座を教えていただきました。ありがとうございます。自分の活動拠点である地域との関わりも考えていきたいと思いました。
・今後も同様の講座があれば参加したいと思います。
・「地域のつながり」のお話しを頂きましたが、今日のこの講座がまた１つのつながりが出来たと思います。今後も活動を頑張ってください。
・司会がとても雰囲気よく進行されていて、場がとても和んでいた。講師の話をわかりやすくもう一度説明してくれるのもよかった。
・１，２部ともに「眼からうろこ」でした。特に「ためまっぷ」に興味ありぜひ利用したいので活動センターに今後ともご指導を。
・ためまっぷは多いに活用したいと思います。ありがとうございました。
・IT とためまっぷ良かったです。あったかさのある講座でした。「はじめてのおつかい」で広報して 20 人定員 12 名参加で伸び悩んでましたが 20 人定員まで達しました。これって「ためまっぷ」のおかげかもです。
・色んな広告ツールを使うことの大切さは良く分かった。
・ためまっぷ 3.11 イベント告知につかってみました。

（西淀川区）防災にフレル in にしよど

・是非西宮市で普及していきたいです。ありがとうございました。
・松村さん和田さんの思いが伝わってきて、暖かい気持ちになり力がわいてきました。
・IT に興味のある方がやはり多いのだということが講座に参加されている顔ぶれでわかりました。
・個人的な関心としては前半のほうがメインで内容も素晴らしく IT 関係で同様の講座をもっとたくさん受けたいと思った。無料で教わろうとするのは虫がよすぎるのかもしれませんが。
・誰かの為に！！という皆さんの思い。私自身、母と協力し合い祖母の自宅介護をして 20 年ほどになります。優しさ（いろんな思い）からはじまったことが伝わりとってもほっこりあたたかい気持ちになりました。ありがとうございます。
・また、今回の内容を深めたもの例えば、・Facebook 管理画面の使い方・ためまっぷの効果的な使い方などそのような講座があればぜひ受けたいと思います。
・今後のチラシ広報の参考になりました。

・ためまっぷがもっと普及したらもっと人と人がつながったり地域が活性化するのではないかと期待大です。自分の住んでいる地域が大好き！と思えるような「あしや・まち育て応援団」のメンバーとできることをコツコツと頑張ろうと思えた講座でした。ありがとうございました。